成果報告書

地域部活動推進事業

担当部署	教育委員会学校教育課									
所在地	島根県雲南市	運営形態	地域連携							
運営主体	株式会社 キラキラ雲南									
課題	このことが、自分の興味・関心ため学校生活が生徒にとってはに居住地を変えてまで自分がした例)市内の中規模の学校には複一方、小規模校では2校が文化ない。 ② 少子高齢化のさらなる進展にチームの編成にも苦労する学校 ③ 中山間地ならではの広域な通部活動のための移動には借り上 ④ 部活動の指導について専門的	② 少子高齢化のさらなる進展により各校の部員数は減少し、中規模校でも吹奏楽部の チームの編成にも苦労する学校がでてくる ③ 中山間地ならではの広域な通学区域と公共交通機関の便が悪いために放課後や休日の 部活動のための移動には借り上げたバスや保護者輸送に頼らざるを得ない ④ 部活動の指導について専門的な知識・技能を有する教職員の確保がむずかしい 学校へのアンケートでも指導者を地域に求めたい、地域へ活動を移管したいという								
事業目標	 ① (休日の)部活動を(文化施設を拠点として)地域で支える取組を試行する 試行するクラブ活動は吹奏楽の1クラブ A 市内の中学生が自分の興味・関心および特性生かした文化活動を選択できる魅力づくり B 持続可能な文化活動が保障される魅力づくり ○ 質の高い指導受けることができる魅力づくり → *個性の伸長および技能の向上 ② (休日の)部活動を地域で支える取組の基盤を整備する E 指導者バンク整備 F 検討・運営委員会の開催と検証・広報活動(市教委) 									
団体・組織等の連携	島根県教育委員会 ① 事業設計 ② 検討・運営会議 ③ 事業の検証・広報 一 再委託・指導助言 (株) キラキラ雲南 ① クラブ活動計画・運営 ② 指導者育成(指導者研修実施+公認資格取得促進) ③ 指導者バンク整備 参画および協力 場根県吹奏楽連盟 関係団体 総合型地域スポーツクラブ 2000									
拠点校等	雲南市立大東中学校、加茂中学校	· 交、木次中学校、	三刀屋中学校、吉田中学校、掛合中学校							

活動場所	雲南市加茂文化ホール ラメール、雲南市立加茂中学校
活動概要	 ① 検討・運営会議の開催(年3回)(スポーツ・文化合同開催) 学校から地域への段階的移行について理解をすすめながら雲南市の状況を踏まえた 上で、「学校と地域が協働・融合」して『生徒にとって魅力的で望ましい部活動のあ り方』について検討し、受託した事業の評価と検証を行う。 ② プラットフォームの構築 事業の委託を通しての「地域文化活動」の統括・調整・推進機関を育成・整備する 具体的には(株)キラキラ雲南への一部事業委託(クラブ活動、指導者バンク作 成)を想定…雲南吹奏楽団との連携を含む ③ 地域文化活動(クラブ活動)の試行 ・吹奏楽:10回(ラ.メール)合同部活動(パートの専門指導+合奏) ④ 指導者バンク整備 ジャンル別の指導者名簿の整備(協力者依頼、資格確認、紹介ほか) ⑤ 評価・検証、広報 アンケート実施:参加者・指導者アンケートほか実施・集計 広報:試行クラブ案内作成 試行クラブの見学会実施 市報、キラキラ雲南広報誌などでの実践紹介

〇本事業による成果

- ・毎回実施する楽器別レッスンにより、各校の講師謝礼の負担軽減につながっている。(経費的な側面)
- ・毎回実施する楽器別レッスンにより、講師が生徒の意識や技術の向上を実感でき、次の指導に繋がっている。 (指導能力向上)
- 楽器別に専門家によるレッスンで力をつけることができる。(技能向上)
- ・土日の指導を請け負ってもらえれば、顧問の週末の負担は減る。(教員の負担軽減)
- ・部員の人数が少人数になり、各学校ではできない練習ができる。(活動の魅力創出)

〇児童・生徒への指導に関する工夫

- ・合同練習というかたちで、いつもより多い人数で練習することにより、他校の同じ楽器の生徒同士でのコミュニケーション意識 の向上がみられる。
- ・他校と一緒に練習することにより、生徒自身の演奏に対しての意識の向上がみられる。

〇運営上の工夫

- ・移動、楽器運搬にスクールバスを利用したが各校顧問に申請を協力してもらった(申請がスムーズな反面、負担はある)
- ・昨年より実施している「ラメール・マスターズプロジェクト」において、各楽器ごとのレッスンを行っている講師に、そのまま地域 指導者としてレッスンをお願いすることで、スムーズに合同部活動時の講師を確保することができた。
- ・活動は通常の部活動の時間(ガイドライン)に沿った運用で行う。ただし、移動時間等は含めない。
- ・関係団体(吹奏楽連盟)等と情報共有を図り、双方にとってメリットのある事業として実施し、関係団体との関係も良好な人材に事務局を務めてもらった。また、地域指導者として教委事務局職員も参加することで、課題の共有・生徒とのコミュニケーションをとり事業の参考とした。
- ・活動場所は、新規事業であることから、生徒にとっての魅力を増すために、再々々委託先が指摘管理しているホールを活用した。(部屋数の確保を含めて)

〇継続的な運営に関する課題

- ・講師謝金の予算が限られているため、生徒の人数に対して十分な講師の数を確保することが難しい。(楽器によっては、参加者が多くなるため。)
- ・楽器別レッスンの時間が限られ、時間的に不十分。(回数が限られているので、一回の練習の内容が増えてしまうなどの消化不良)
- ・各校の行事やテストの日程、顧問の練習計画の判断等により、全ての学校の参加には至っていない。実施日の日程調整が難しい。
- ・現在の体制では、生徒の監督責任はあくまでも学校にあり、顧問あるいは学校の教員が生徒の出欠確認や出発・帰校の確認、大型楽器の搬出のための学校の開錠などをしなければならない現状がある。
- ・学校から練習会場までの生徒の移動について、引率を伴わなくてもよい方向で進めていく場合、移動時に事故が発生した場合の責任の所在をどうするのか。更にはその実施について、学校関係者(管理職・全教職員等)と保護者に十分に周知徹底し、理解を図る必要がある。
- ・地域部活動推進に関しての学校現場への周知は不十分。その必要性についても学校の規模、地域環境、顧問の部活に対する姿勢により大きな温度差がある。

〇令和5年度からの学校部活動の段階的な地域移行に関する方針・計画

地域資源や施設・少子化に伴う規模縮小などを考慮し、下記の2パターンのモデルを実施する。

- 1. 学校部活動(平日)と地域部活動(休日)の連携モデル
- (1)1学期~夏休み:学校部活動は大会およびコンクールを目指す ハイシーズン(月0~1回)
 - ①地域部活動(休日)の合同練習で1年生の基礎的技能をつける
 - ②地域部活動(休日)の合同練習で全体の技能を伸ばす
- (2)2学期、3学期:学校部活動は次年度に向けて力をつける オフシーズン(月2~3回)
 - ①地域部活動(休日)の合同練習で全体の技能を伸ばす
- 2. 学校部活動(平日)を地域指導者が補完するモデル
- (1)通年:地域指導者を学校部活動(平日)へ派遣する 部活動顧問と協働し技能を伸ばす(年:10日程度)
- ○移動手段の検討
- ・公共交通機関が少ないことから、スクールバスの利用を前提としながら、参加しやすい方法を検討する。
- ○人材バンクの作成継続
 - ・引き続き、人材バンクの更新を行い、指導者を増やす。
- 〇広報活動の推進
- ・市報などを通じて、取組内容について広報を行う。
- ・部活動検討会議を開催し情報共有を図る。

〇令和4年度 取組状況等

	人数等	中学生(1~8回)、高校生(6~8回)									
参加者		回数	1	2	3	4	5	6	7	8	
		参加生徒数	女 55名	3 1144	图 53名	3 18名	52名	68名	64名	115名	
	募集方法	各校部活動を通じて、各校顧問から説明									
指導者	人数等	12名									
	募集方法	別事業(指定管理先事業)に登録している指導者を活用									
参加者の移動手段 スクールバス											
活動費用	指導者謝金等	指導者謝金 1,000円/時間(旅費含む)、合奏指導・地域指導者講習_講師謝金 30,000円/回									
	その他	大ホール 33,000円/回、小ホール利用料 1,275円/時間 ※一部免除あり スクールバス使用料 5,619円~24,873円(運行距離等により異なる。)									
活動財源	会費	無料									
	その他	無し									
	基本活動	月1回程度実施									
スケジュール	年間	回数	1	2	3	4	5	6	7	8	
		実施日	6月4日(土)	6月11日(土)	10月1日(土)	10月22日(土)	11月12日(土)	1月14日(土)	1月15日(日)	1月21日(土)	
		実施時間	9:00~12:00	9:00~12:00	9:00~12:00	9:00~12:00	9:00~12:00	9:00~13:00	9:00~13:00	9:30~15:30	
保険加入等		加入無し									

【活動の様子(写真添付)】









